

## 『城山の保育』と入園に際してご理解いただきたいこと（重要説明事項）

稲城青葉会では、恵まれた自然環境の中で自然と親しむ体験保育を行っています。自然環境の中での体験で子ども達の人格形成の基礎となる生きる力の土台を養っていきたいと考えています。当法人では、下記のようなことを大切に保育を進めて参ります。

### 自分で考える力を

自然そのものが「遊び道具」になります。「遊びたい」という思いがあれば、子どもはどう使って遊ぶか考えていきます。大人が思いつかない遊びが始まるかもしれません。使い方が決まっていな自然のものだからこそ、自由に考えたり、工夫したりできると思いませんか。発想を膨らますことが生きていくなかで大切な力を育てることにもなります。

### 自然や命の大切さ

命の大切さを知ることは、生きていく上でとても大切なことです。

生きているからこそ命があり、いつかは終わりを迎えます。

毎日の散歩中に見る花があるとします。

「芽が出てきたね」「綺麗な花が咲いたね」と話していても冬を迎えるころには、花は枯れてしまいます。枯れた花を見て、とても悲しく感じる子どももいるかもしれません。

「命には限りがある」ということを知ることで、感情性が豊かな子どもになるともいわれています。「今この瞬間を大切にしないと、二度と同じ瞬間はやってこない」ということを、自然の中ではたくさん実感することができます。「生きているとは、どういうことか」ということも自然と感ずることができるのではないのでしょうか。

### 自然の中で遊んで健康に

自然の中で遊ぶときは、走り回ったり、木登りをしたりと、いつも以上に体を思い切り動かします。知らないうちに、子どもの基本的な身体能力を使います。自然の中だからこそ失敗を恐れることなくチャレンジすることもできます。五感をフルに働かせる遊びは健康そのものともいえます。

### 子どもが主役・大人は見守る

子どもの成長に欠かせないことが「遊ぶこと」です。毎日の遊びのなかで、

さまざまな経験ができます。大人が遊びを教えるのもよいのですが、

子ども自身が「身近にあるものを使ってどう遊ぶか」や

「どういうルールで遊ぶか」など考えることが大切です。

自然の中で遊ぶときには危険が伴うこともあります。

子どもは遊ぶことに夢中になってしまいがちです。しかし何でもかんでも

「危ないよ」「ダメだよ」と注意するのではなく、大きな怪我をしそうなときなど、

大人の助けが必要なときに、しっかり手を差し伸べてあげられるように見守るといいのではないのでしょうか。

子どもが大きくなった時に大きな怪我につながらないようにするには、沢山の遊びや経験の中で転んだり擦り傷を作りながら、自分で危険を察知し回避する（リスクをコントロールする）力を身に付けていくことが大切です。

